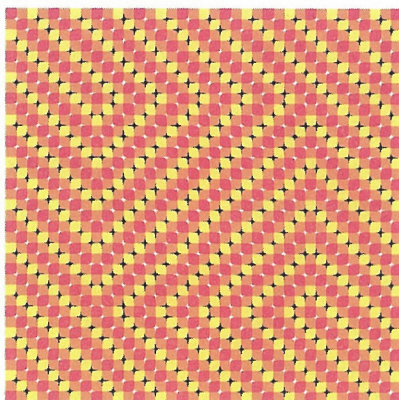
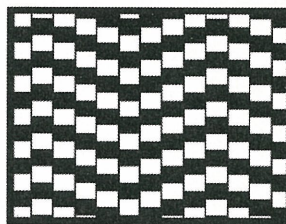
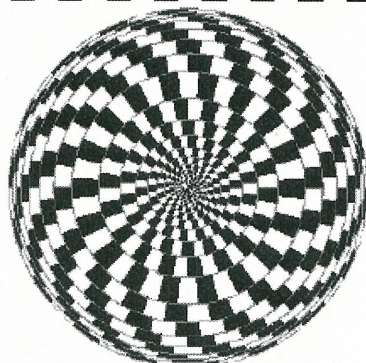


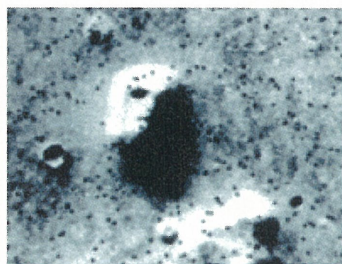
観覧ニュース

91号

2002.10



<http://www.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/> より作者の許可を得て転載



<http://www.naklab.k.dendai.ac.jp/~kusachi/heimen/uma.html> より転載 426100'0 'れと景の隠国

「原爆」の記憶

天 野 卓 治

私の本棚の片隅に古ぼけて茶色に変色した一冊の文庫本が並んでいる。詩集「原子雲の下で」である。この本は広島で被爆した子供たちの詩集で、広島県尾道の私の実家にあったものである。表紙には「母の文庫」と大きなゴム印が押されており、裏表紙に貼り付けてある、これも変色したざらざらのわら半紙には、30名ほどの女性の名前を書いた表がガリ版で印刷してある。私の母を含んだ幾人かの名前の欄には認め印が押されている。この表の日付から、この本が一人2週間づつの割で母親達の間で回覧されていたことが読みとれる。母の文庫について、経緯や組織は私にはわからないが、とにかく、私にもこの文庫の本を学校に持ってゆき先生に渡した記憶があるので、私の通った小学校の母親たちが戦後の不自由な、しかし、婦人参政権の獲得などにより、新しい社会をめざした庶民レベルでの高揚の一時期、母親達それぞれの知的欲求を背景にして、学校を介して共同で運営した組織であったのだろう。この本が我が家に取り残されたのは、昭和30年代のはじめ頃の変化の時期、教育委員会の公選制の廃止など学校管理の強化の時期に、その影響でこの会は解散となったのだろうと想像している。

「原子雲の下で」には、原子雲の下にいた小学生から大人までの被爆者の詩が書かれている。その一節

・姉ちゃんは骨だけになって死んだ。死ぬとき「ピカドンを忘れんさんな」といった

・やさしいやさしい母さんは／あのばくだんで／きえちゃった／ぼくはただの一人ぼち／もうせんそうはこりごりだ

「原子雲の下で」のすぐ隣りには、原爆に関するもう1冊の本、父の友人の福崎さんからいただいた原爆歌集「さんげ」のコピーがある。「原爆雲の下で」にも被爆後の生活苦を綴った詩をのせている、正田篠枝の歌集である。昭和22年、進駐軍の検閲をのがれて自費出版されたものである。この本は後に再出版されたが、コピーをいただいた1970年当時は手にはいらなかったもので、父の友人は、広島原爆資料館でコピーさせてもらったそうである。彼は、商売取引の関係で戦前から正田篠枝さんを知っていたそうで、偶然、原爆資料館で篠枝さんの歌集を見つけたとのことである。「さんげ」には被爆した篠枝さんの見た広島のようなすが詠まれている。平和公園にある教師と子供の像の碑文「おおきい骨は先生ならむちいさきあたまのほねあつまれり」もこの歌集の中の一首である。原爆では多くの子供を含む民間人が本当に無惨な死に方であっていった。もう一首「酒あふり、酒あふりて死体やく男のまなこ涙にひかる」自分の子供と同じ年頃の子の死体でもあったのであろうか。

母の文庫による「原子雲の下で」の回覧からは、戦争のない新しい社会を築こうとした庶民の意識が伺える気がする。また、福崎さんが私に「さんげ」のコピーをくれたのは、彼なりの仕方であって原爆を語り、庶民レベルでの戦争の悲惨を伝える義務があると考えていたからだと思う。

テレビ番組で原爆に関するアメリカでの意識について知る機会があった。1つは長崎に原爆を投下したB29の乗員についてのもので、もう1つは原爆を開発した科学者・技術者の意識に関するものであった。戦争という殺人ゲームに使われた原爆という近代兵器は現代

の戦争の実体と危険性を象徴する。しかし、原爆を作りまた使用した人にとって、原爆の投下はバーチャルな出来事であり、自らが数十万人の悲惨な死の執行者の一人であるとの意識は少ないことがわかる。原子雲の下を見たことのない彼らは、その悲慘が自分たちの行為であるとの意識は少なく、「戦争の早期終結の為には必要な行為であった」と説明する国家側の論理を無批判に受け入れ堂々と主張している。捕らえた中国人の首を刀ではねた日本兵士の沈黙とはある意味で対照的である。

しかし、日本においても戦後社会の転換点にある今、戦争体験によって国民大多数の合意として唯一学んだ「戦争は悪だ」の意識も、「平和ほけ」とか「正義の戦争」のかけ声にうもれて行こうとしている。中国での日本兵による残虐行為を子供達に教えてはいけないのだと主張する人たちが声を大きくしている。

戦争は天災ではない、市民の上に原爆を落としたアメリカ、国体にこだわって戦争終結を遅らせた日本、それぞれの国の指導者の

「国家を価値の中心に置いた」意志決定があの惨禍をもたらしたということを忘れてはならない。個人の視点から見たとき、国家の主張する「正義の戦争」などあり得ない。原子雲の下にいた人々のように無為に殺され、あるいは、殺人を強制される。民主主義国家である現在の日本では、我々自身が国家の進む方向を決めることができるはずである。我々の親の世代が行い、体験したことは何だったのかを正しく知り、次の世代に語り継ぐと共に、戦争、核兵器に対してはNOと叫び続けたい。

(基礎科学センター・物理)

参考図書

「原子雲の下で」 峠三吉編 青木書房 1952

「さんげ」 広島文学資料保全の会

社会思想社 現代教養文庫 1995

「原爆神話の五十年」 斉藤道雄著

中公新書 1995

「ヒロシマ・ノート」 大江健三郎 岩波新書

教養図書館からのお知らせ

視聴覚資料の貸出について

ここ、数年来、メディアの多様化と利用者の要望に伴い、図書館の資料も紙媒体だけではなく、デジタルな資料が増加してきております。一例を挙げればビデオ(DVD)コンパクト・ディスク(CD)レーザー・ディスク(LD)などの視聴覚資料ですが、それ以外にも検索ソフトや地図など次々とCD-ROM化されてきております。これらの資料への対応として、9月から全面的に貸出することにいたしました。先生からのレポートの課題であったり、あるいは語学の学習であったりと、忙しい皆様には、家庭でゆっくり利用して頂きたいと判断したからです。時々、「1泊2日ですか」とか「何泊まで借りられますか」「いくらで借りられますか」などと会話が飛び交っていますが、図書館は全て無料、一週間ですよとお答えしております。ただし、教材として利用の集中するものについては1泊2日等という対応をすることもありますのでご了承ください。今年は、先生方からの希望もありまして、ビデオ(映画)を中心に購入しております。どうぞ、ご利用ください。

ビデオ

* プラークの大学生 * カリガリ博士 * 吸血鬼ノスフェラトウ * メトロポリス * 聖山 * 橋
* 都会のアリス * ノスフェラトウ * ベルリン・天使の詩 * 17歳のカルテ * 電話で抱きしめて
* グッド・ウィル・ハンティング * セブン・イヤーズ・イン・チベット * ゴールデン・ボーイ
* 鳩の翼 * ディープ・インパクト * グリーンマイル * マグノリアの花たち * わが街 * その男
ゾルバ * 荒馬と女 * 恋におちたシェイクスピア * サウンド・オブ・ミュージック などなど。

不思議なこと

鈴木 牧彦

まずは、上段左の図形を見てください。誰が見ても渦巻きに見えないと思います。でもはたしてそうでしょうか。渦巻きに見える灰色の線のどこかにペン先をあてて線を辿ってみてください。ペン先は一巡し、最初にペン先をあてた起点に戻ってしまいます。そうです、この図形の中に渦巻き実は一本もないのです。直径の異なる同心円が何個も重なっているにすぎません。この図形にはもうひとつ不思議なところがあります。円の中心を見つめながら絵を近づけたり、遠ざけてみてください。渦が回転して見えませんか。このように、視覚系に起こる錯覚のことを「錯視」と言います。この渦巻き錯視が起こってくる理由を考えるのに適したもっと単純な錯視があります。表紙の5つの図や写真を取り囲んでいる枠を見て下さい。上辺と右辺の灰色の枠線はそれぞれちゃんと水平、垂直に見えますが、左辺と下辺は、どちらも右に傾いて見えます。これは、Cafe Wall錯視と言って、一本の直線の両側にズレた白黒を置くと直線が傾いて見えるのです。白黒が完全に重なり合った上辺や右辺では傾いては見えません。上段右の図柄も、市松模様の境界線が傾いて見えます。とあるカフェの内装の壁がこのような模様だったため、Cafe Wallの名前がつけられたと言われます。もうひとつ、中段の錯視図形にも注目してください。内側の領域は垂直線が左に、水平線が右に傾いて見え、外側の領域はそれぞれが逆に見えます。そればかりではありません。図を上下に、あるいは左右に動かして見て下さい。図が視野を上下に動くとき内側の領域が左右に動いて見え、左右に動くとき上下に動いて見えませんか。

さて、私たち人間が不思議に思うことは、錯視に限らず、私たちの身の回りを探せば数多く見つけることができます。しかも人間には、不思議な出来事を好んで体験してみたいという習性がどうも強くあるようです。下段左の写真は1976年アメリカの火星探査船が捉えた有名な「人面岩」です。これには一時、「人面岩」をエジプトのスフィンクスになぞらえて、火星人や火星に立ち寄った宇宙人が建設した人工的な建造物であるとか、近くにはピラミッドのような規則正しい形をした建物すらあるというオカルト的な流言が飛び交いました。月の表面にお餅つきをするウサギを見たり、心霊写真に亡くなった人の顔を見たり、あるいは下段右のような隠し絵の中に隠れた対象の顔（ここには6

頭の馬が隠れています）を見てしまうことを「相貌知覚」と言います。これは人がものを見る時、全体を部分や要素のばらばらな集まりとしてではなく、ひとつの意味のあるまとまりとして知覚しようとする人間特有の心の働きが一因です。このように、人々が経験する不思議な出来事や体験は、人間が環境を認知したり、物事を推理・思考する際の「くせ」のようなものによっていることがしばしばです。認知心理学という心理学の分野では、人の心を脳というコンピュータで作動しているソフトウェアと考えていますが、それは人間の心がコンピュータと全く同じ働きをするという意味ではありません。むしろコンピュータとは違う、人間特有の認識の仕方、思考や推理の方法を明らかにするのが目的です。不思議な体験に出会い、それを超常現象とか超能力として捉えること自体を否定するわけではありません。でも、思考停止状態に陥って、それらを無批判に信じたり、神秘的に崇めたりすることには反対です。霊能力、テレパシー、チャネリング、予知夢、手かざし治療、自己啓発セミナー、深層心理占い、血液型性格検査などが流行し、第三次宗教ブームに多くの現代の若者が取り込まれ、インチキ商法の被害が増加しているのも、「疑うことよりも信じることをたたき込まれる」詰め込み教育に一因があると言う研究者がいます。人間の認識や思考・推理の仕組みや特徴を明らかにすることを目標とする心理学は、同時に不思議な現象の背景にもそのような人間特有の心の仕組みがあると考えています。

最後に、思考心理学のなかで「ベースレートの無視による錯誤」の例としてよく取り上げられる問題を紹介します。信頼性の高い医学的検査を受けて陽性と診断されたら誰もが顔が青ざめてしまうでしょう。そんなことに関係した問題です。1)あるガンに罹る確率は、0.0001である、2)そのガンに罹っている人の95%が検査Aで陽性となる。さて、ある人がこの検査を受けたところ陽性であった。この人がガンに罹っている確率は一体どのくらいでしょう。（答えは表紙にあります）

せっかくの閲覧ニュースです。2冊だけ、本を紹介して終わりたいと思います。

ギロピッチ：人間この信じやすきもの、新曜社

伊藤 進：ハートギャラリー はじめての認知心理学、川島書店

(心理学)

閲覧ニュース91号

2002.10発行

北里大学教養図書館

〒228-8555 相模原市北里1-15-1

発行責任者 伊藤 俊洋

電話 (042) 778-8005